

MEIJI MURA

明治村だより

Vol.63 2011 Spring



ドイツで製作された明治宮殿の絨毯
ヴァンデ、ペアーテ 2

「特定公益増進法人認定」に伴う
建造物移築保存修理紹介 6

明治村文化講座「明治塾」のご案内 9

春の催しもの 10

明治村 案内図



日本赤十字社中央病院病棟
建設年 明治23年(1890)
この中央病院は、わが国が明治19年(1886)に万国赤十字条約に加盟した際、皇室から賜った御料地に建てられた大規模病院である。設計監督は、赤坂離宮の設計者であり、日本最初の建築家4人のうちのひとり、片山東熊である。



東山梨郡役所 〈重要文化財〉
建設年 明治18年(1885)
東山梨郡役所は、地方行政の整備に伴って改編された東山梨郡の新庁舎であった。当時の山梨県令(現在の知事) 藤村紫朗が奨励した洋風建築のひとつであり、左右対称形や正面を廻るベランダは当時の官庁建築の典型である。

表紙 近岡善次郎画
近岡善次郎
大正3(1914)年~平成19(2007)年
山形県新庄市出身。「一水会」所属。日本各地の300ヶ所以上を回って「明治の西洋館」を描いた。博物館明治村にはそのうち100点が2回にわたって寄贈された。

平成 23 年 3 月 15 日 発行
「明治村だより」第 63 号 (平成 23 年 春)
発行 博物館明治村
〒484-0000 愛知県大山市内山一番地
電話 (0568) 67-0314
http://www.meijimura.com
製作 大日本印刷株式会社

「明治村だより」第 64 号発行のお知らせ
発行時期 平成 23 年 7 月中旬 (予定)
申込方法 「明治村だより」第 64 号ご希望の旨及びご住所・お名前を明記の上、送料 140 円切手とともに封書にてお申し込み下さい。

ドイツで製作された明治宮殿の絨毯

ヴォンデ、ペアーテ

ベルリン国立図書館で、私は数ヶ月間にわたって、日本の軍医で後に作家となる森鷗外のベルリン滞在中の情報を収集するために、一八八七・一八八八年の新聞を読んでいた。森鷗外に関することはみつけれませんでした。そのかわりに、そこで一八八七年十一月十五日付けのベルリナー・ターゲブラット新聞(写真3)の記事を偶然目にしました。それはラウジッツ地方^{※1}生まれの私としては興味をかきたてられるものでした。



写真1 明治宮殿正殿外観

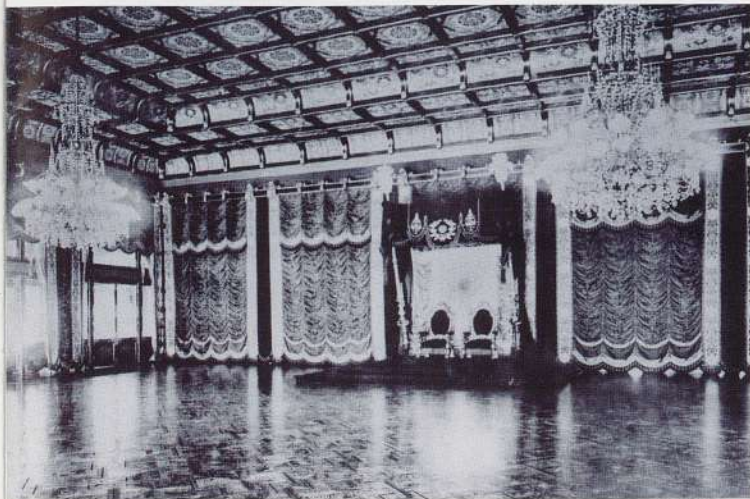


写真2 明治宮殿正殿

「ドイツ産業が日本へ。コットプスからのたよりに日本は日本の皇居の謁見のための絨毯がO.Prietsch製絨所^{※2}(写真4)で先週の土曜の午後と日曜の午前中展示…」この記事は「ハンブルクの有名な室内装飾会社のハイマン社 (J.D.Heymann) (写真5) は四年間にわたり、日本との交渉に入っていたとのこと。彼らは最終的に、日本の皇居の

ほぼ全室にあたる九十八室の設備・内装・装飾に対して、概算17億5千万マルク分の受注を受けたが、ハイマン社は当初、謁見の間・控えの間・サロン・婦人用着替え室・接見室に用いる六つのスミルナ絨^{※3}を、パリの会社に依頼するかどうか決めかね

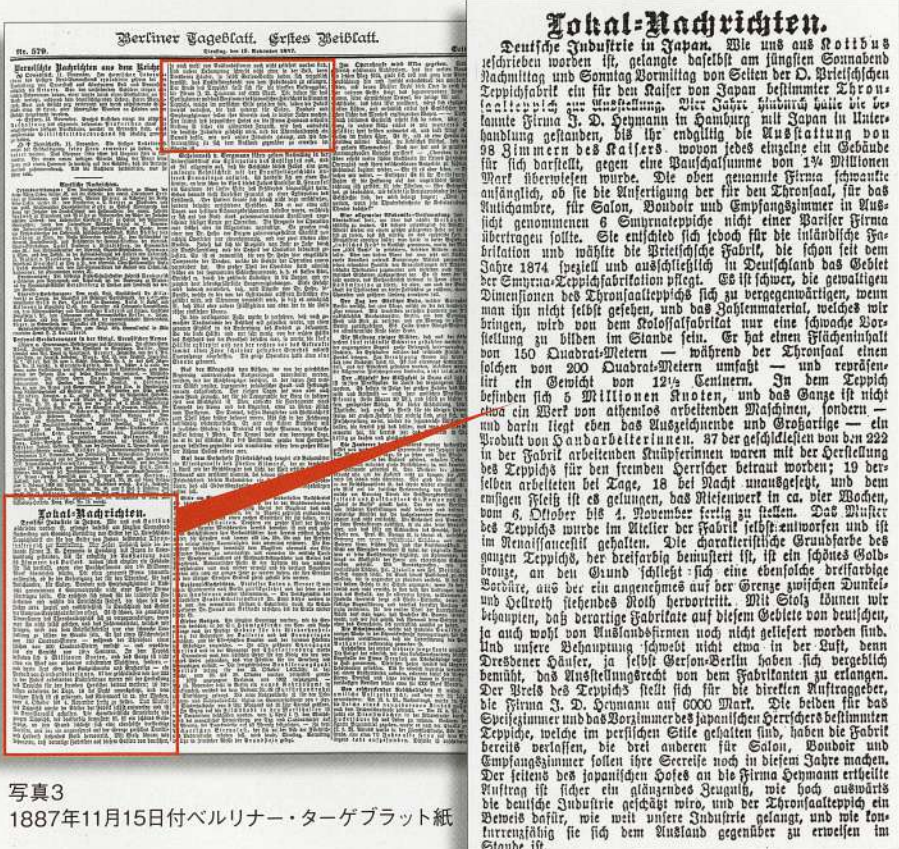


写真3 1887年11月15日付ベルリナー・ターゲブラット紙

てた。結局彼らは絨毯をドイツ国内で生産することとし、一八七四年以降ドイツ国内で専門的に中東風の絨毯生産を行い体制も整っている唯一の会社であるO.Prietschの工場を選ぶことを決めた。」と書かれています。



図1 ドイツ地図 (左図はベルリン周辺拡大図)

コットプスで織られた玉座の間の絨毯を新聞は「巨大作品」と呼び、その巨大さを数字で示していますのでここに紹介いたします。

「玉座の間の面積は二〇〇平方メートル、絨毯は一五〇平方メートル^{※4}、そして重さは十二・五セントナー(六二五キロ)。絨毯は五百万個の結び目でできており、これは休みなく働く機械で織るのではなく、手仕事でなされたことは、大変価値のあること、さらに女性の技術者によって製作されたということは特筆すべきことだ。絨毯が製作された工場では働く二百二十二人の技術者のうち、一番高い技術を持った八十七人が遠い国の君主のための絨毯製作を任された。毎日十九

人が昼間、十八人が夜と交代で絶え間なく働き、そしてその勤勉な仕事ぶりのおかげで十月六日から十一月四日のたった約四週間で、偉大な作品を完成することができた。」

絨毯の模様は工場

のアトリエでデザインされ、ルネッサンス・スタイルが選ばれました。三色でデザインされた絨毯の基色はゴールド・ブロンズで、同じような三色のふち飾りで区切られていました。「濃い赤と薄い赤の間にある心地よい赤が際立っている」と報道されています。

「このような製品は、ドイツははじめ諸外国の何処の企業でもいまだ製作されたことがなかった事は、自慢できることである。」と当時のベルリナー・ターゲブラット新聞は語っていますし、また「我々の報道がでっち上げではない証拠に、ドレスデンにあるデパートの多くやベルリンのデパート、ゲルソン・ベルリン (Gerson-Berlin) *9も、この工場の製品を展示する権利を得ようと多大の努力を払ったが叶わなかった。直接の発注者のハイマン社はこの絨毯に対して六千マルクを支払った。日本の君主



写真7 当時の絨毯工場の建物を利用したフォルスト織物博物館



写真8 フォルスト織物博物館での「織る」ではなく「結ぶ」絨毯の製作実演

の食堂と控室の二室の絨毯はベルシアスタイルの絨毯で、既に工場から出荷されており、他の三つのサロン・婦人用着替え室・接見室は今年中に船で出荷される予定だ。…」と報道しています。

しかし無類の輝きとそれにつながる絨毯会社とその経営者Oscar Prieschの名前は年月を経て、明らかに輝きを失っていききました。ベルシア絨毯という言葉をきいて、コットプスを連想する人は今日ほとんどいません。日本でも天皇の宮殿に製品を納

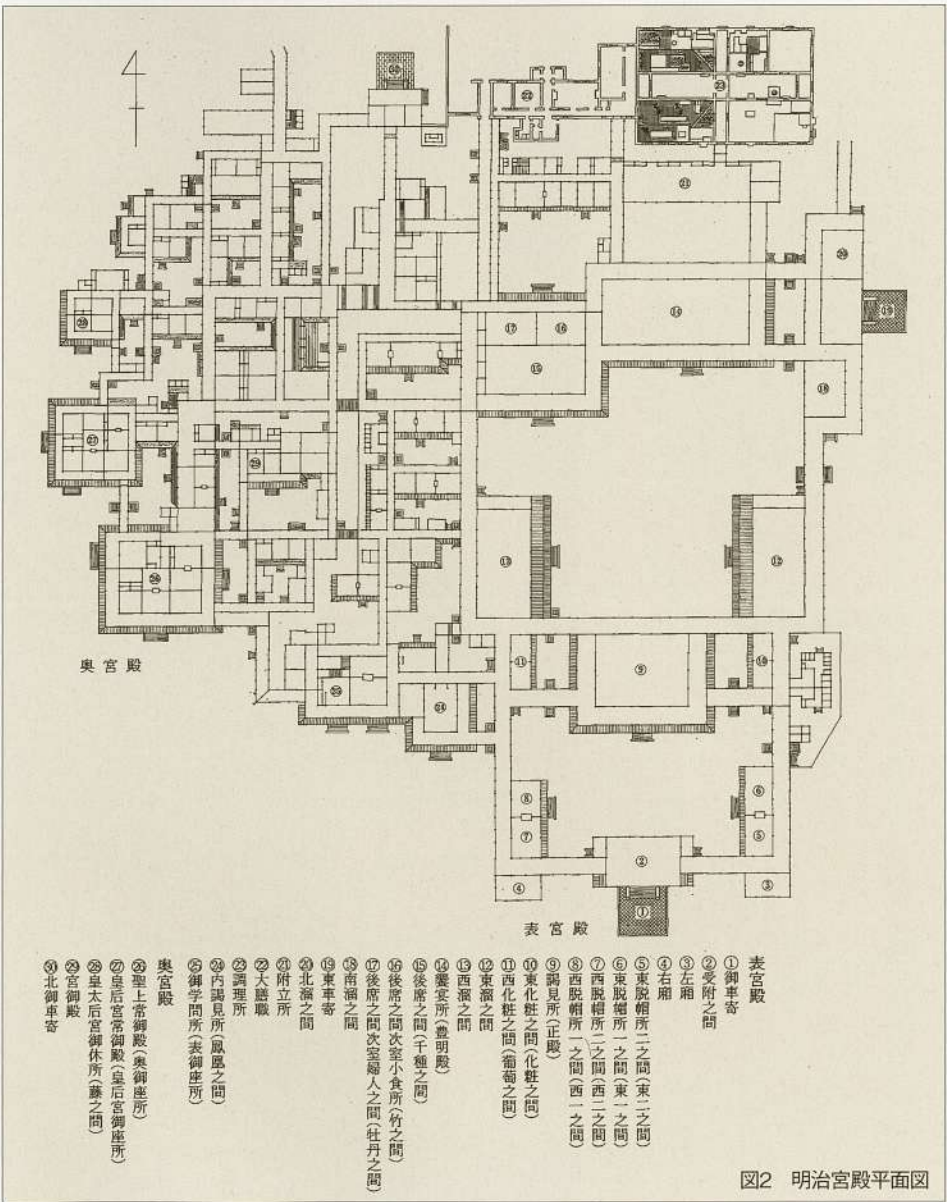


図2 明治宮殿平面図 (博物館明治村「明時宮殿の移戸絵」1991より)

めたほどの会社のことはすっかり忘れ去られているようです。

明治宮殿は天皇の公務を行う表宮殿と天皇の家族が居住する奥宮殿からなりたっています(図2)。表宮殿の家具調度は日本と西洋の要素が混ざったもので、日本風の木製の天井に、例えばシャンデリアが吊るされていたり、床は床板が張られていました。奥宮殿は全く日本風の内装に整えられましたが、そこにさへ暖炉や机、椅子、絨毯が用いられました。

一八八六(明治十九)年東京の宮内省皇居御造営局は横浜に駐在しているドイツの商社カール・ローデ社(Carl Rohde & Co.)に新宮殿に必要な不可欠な家具とインテリアの調達を委託しました。

同時に、模様や色が宮殿にふさわしいかどうか判断するため、日本からドイツへ専門家を送り込むことも決定されました。代表団は著名な建築家片山東熊の指揮の下、同年十二月、日本を立ち、フランスのバリ、ドイツのベルリンやハンブルクに滞在した後、再びパリ、そしてイギリスのロンドンを経由して一八八七年十月に日本への帰国の途につきました(写真9)。

日本使節団の滞在の詳細、殊にコットプスに行ったかどうかなどは、正確に伝えられてはいません。絨毯に関する新聞記事からは、ハイマン社がカール・ローデ社の契約相手であったこと、そして最初の二枚の絨毯が横浜へ発送され、その時期は十月五日と十一月三十日であったことがわかっています。

片山は現地で宮殿用に製作された製品に非常に満足したようです。現在宮内庁に遺されている資料から、彼ができた製品に深い感謝を表すために、一八八七年十月一日のハンブルクを立つ前にハイマン氏はじめ十五名の関係者を招待し、贅沢な晩餐会を催したことがわかります(写真10)。

コットプスからの絨毯は、一九四五年五月二十五日のアメリカ軍の爆撃により宮殿が完全に破壊されるその日までそこにあったということです。

WONDE, Beate (ベルリン森嶋外記念館 副館長)

*1 現在のドイツ・ブランデンブルク州南部とザクセン州東部の地域。ポーランド国境に近く、スラブ系のソルブ人が多く居住する。

*2 O. Prieschで五万枚目の絨毯の完成を記念した記念写真。多くの女性労働者はソルブ人の民族衣装である頭巾を被っている。

*3 トルコの町スミルナに因んで名付けられた。スミルナは現在のイズミルの旧名。

*4 『皇居造営録 片山技師独逸出張裝飾品購買諸件 第19号』(宮内庁書陵部蔵)の中に綴られている「購辦 御裝飾品説明書」の中の「謁見所家具及敷物」の項には次のように記されている。「スミルナー」敷物 但其品質ハ帝王質(最上ノ意味) ニシテ 凡十一メートル(二十三メートル)

*5 カール・ローデは日本が開国したごく初期の頃に横浜で開業し、日独間の交流に貢献したと記載されている。

*6 ゲルソン百貨店 当時ベルリンを訪問する上流階級がかならず訪問する百貨店。今のKadeWeのようなもの。ユダヤ人服飾デザイナーのヘルマン・ゲルソン (1813-1881) が一八四八年に開店したベルリンの古いデパート。そこで売られる彼がデザインした婦人服で有名。プロイセン、ロシア、英国、アイルランド、スウェーデン、ノルウェー各国の王室やドイツ帝国とも取引があった。ヘルマンが亡くなる直前には、皇帝ヴィルヘルム二世の正装マントの注文を受けていた。彼の死後会社はまずまず成長し、店の従業員だけでも二百四十人、その他の家内作業員は千五百人にも上った。一八九四年のヘルマン・ゲルソン社の年間収入は三千万マルクと業種内の一位を誇った。

*7 フォルスト(Gorselt)はコットプスから電車で30分位のポーランドと国境を接する街。一時は絨毯製造で栄えたが、第一次・第二次の世界大戦、東西ドイツ統一などの影響を受け、多くの工場は製造を中止し、現在ではかつての絨毯工場の建物を利用した織物博物館のみで往時の様子を知ることができる。

*8 いずれも『皇居造営録 片山技師独逸出張裝飾品購買諸件 第二(二第八号)』(宮内庁書陵部蔵) 翻訳に際しては、大山市国際交流員 佐々木ゼルマー・シユテフ・Stataarchiv, Hamburg・宮内庁の文書に関しては博物館明治村学芸員中野裕子が調査を行った。

「特定公益増進法人認定」に伴う
建造物移築保存修理紹介

博物館明治村を運営する財団法人明治村は、文部科学大臣より平成十七年六月二十四日付にて、「特定公益増進法人」の認定を受け、現在も継続して認定されています。

「特定公益増進法人」は、公共法人、公益法人等のうち、教育や科学の振興、文化の向上、社会福祉への貢献等で公益の増進に著しく寄与している法人に認められるもので、所得税法施行令第二二七条と法人税法施行令第七七条とに規定され、「特定公益増進法人」が行う主たる事業への寄附者は、個人、法人とも税法上の優遇措置を受けることができます。

認定を受けて以来、およそ五年間で「芝川又右衛門邸」移築工事、「高田小熊写真館」および「北里研究所本館・医学館」修理工事など大型事業を行うことができました。

皆様からいただきましたご支援に対し篤くお礼申し上げますとともに、ここにこれまでご寄附いただいた方のお名前をご紹介しますいただきます。

また今後とも博物館明治村の活動にお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

芝川又右衛門邸



- 千島土地株式会社
- 川本産業株式会社
- 有限会社トップ技建工業杉原明雄
- 株式会社安井建築設計事務所
- 株式会社交通新聞社東海支社
- 株式会社共和
- 三国産業株式会社
- 犬山ビール株式会社
- 株式会社大協
- 株式会社TKアーキテクト
- 株式会社グローバルハウスウェルインベシヨンス
- 株式会社服部建築事務所
- 医療法人社団野上歯科医院
- 桑原精工株式会社
- 株式会社大伸精研所
- 株式会社尾路商会
- 株式会社アップシステム
- 社団法人愛知建築士会名古屋西支部

法人の部

- 医療法人成宏会伊藤外科整形外科
- 角本税理士事務所
- 村瀬興業株式会社
- 株式会社ケーテック
- 株式会社竹中工務店(名古屋支店)
- 小林製菓株式会社
- 陶芸いか、会木曜グループ
- 博物館明治村ボランティアガイドの会
- 社団法人愛知建築士会
- 若山造園土木株式会社
- 有限会社リビンググサポート大西
- 五康株式会社
- 原工務店
- 八百彦本店
- 有限会社山進木工所
- 小弓鶴酒造株式会社
- 株式会社みずほ銀行難波支店
- 博物館明治村ボランティア会

個人の部

木村 英昭 山田 忠明 西田 幸一 平川 正博 石原 克徳 伊元 隆一郎 岩崎 有吾 大村 幸久 矢野 久夫 泉岡 喜世 吉岡 美世 金田 雅敏 西尾 晴美 川本 喜美子 大堀 裕三 上西 博三 阪西 裕三 諸島 伸治 一瀬 隆重 柏尾 ひとみ 柏内 八重子 山内 飛鳥 木村 勇輝 高村 保弥 久村 敏博 新田 武昭 津浦 幸聡 渡辺 嘉信 梅村 京隆 鏡原 哲也 北原 正猛 木下 栄一郎 廣江 満男

桑原 穎一 丹野 聡人 徳野 隆喜 平澤 亘裕 藤川 智二 奥野 隆二 恒川 元徳 山中 克徳 山田 隆一郎 塩田 有吾 別所 幸久 柏木 節美 河野 利香 塩野 香一 塩野 香一 河野 利香 塩野 香一 塩野 香一 河野 利香 塩野 香一

井上 寛通 村上 滋邦 品川 友香 苗村 康一 赤川 ジュン オザワ ジュン 芝川 輝彦 笠川 百合子 笠川 百合子 笠川 百合子 笠川 百合子 笠川 百合子 笠川 百合子 笠川 百合子

高田小熊写真館



小 熊 義 人
小 熊 和 子 (敬称略)

村川 上 深井 明比古 市川 正 向芝 節男 山下 光広 篠原 祐嗣 宇野 竜哉 今井 陸 今井 陸 今井 陸 今井 陸 今井 陸 今井 陸 今井 陸

(敬称略)

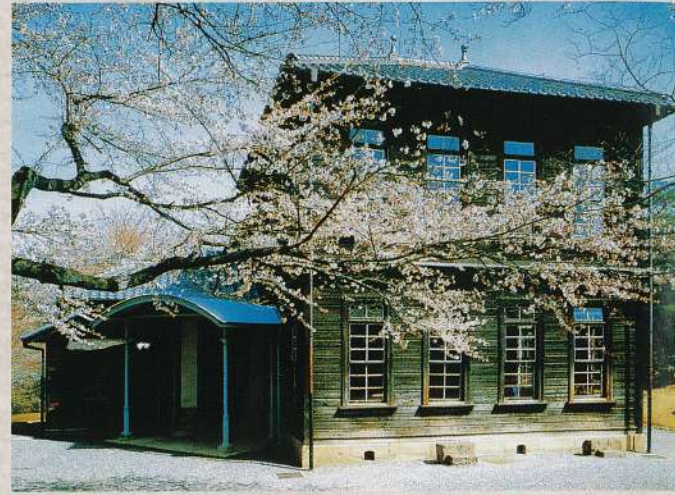
寄附募集要項

●寄附の種類

一般寄附もしくは指定寄附をお選びいただけます。
指定寄附の場合は現在下記事業の寄附を受け付けています。

指定寄附：事業名称「学習院長 官舎 保存修理工事」
寄附期間：平成23年4月～平成24年3月まで
寄附方法：1口＝1万円（口数はご随意）

※1万円未満の寄附もお受けいたします。



●お申込手続

所定の『寄附申込書』（必要な場合はお送りいたします）、
または、明治村ホームページ「寄附の募集 寄附申し込み
フォーム」でお願いします。

●ご送金手続

（口座振込）
三菱東京UFJ銀行
新名古屋駅前支店
普通 1333170
〔口座名〕財団法人 明治村
理事長 木村探（キムラミサオ）
（現金書留）〔郵送先〕
〒484-0000
犬山市内山1番地
財団法人明治村寄附担当宛
※誠に恐縮ですが
郵送料はご負担ください。

●税制上の優遇

当財団に寄附をする場合は、以下のような税制上の優遇措置が得られます。

①個人の場合

次の算式で計算した金額が「寄附金控除」として、確定申告の際所得控除できます。

$$\frac{\text{当該年度に支出した募金(寄附金)の額}}{\text{〔総所得金額等〕の40\%が限度}} - 2000円 = \text{寄附金控除額}$$

②会社等法人の場合

次の算式で計算した「損金算入限度額」に相当する金額まで損金に算入できます。

$$\text{損金算入限度額} = \frac{\text{資本等の金額} \times \text{当期の月数} / 12 \times 2.5 / 1000 + \text{所得の金額} \times 5 / 100}{2}$$

明治村文化講座「明治塾」

塾生
募集中

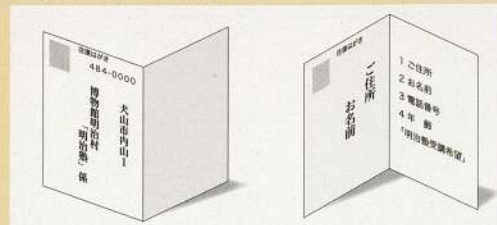
明治村をより理解していただくために、建築のみならず明治時代に関する様々な分野について、各分野で活躍中の研究者に講演いただきます。

応募資格／明治時代の建築や文化等に興味のある方。
原則5回すべて受講できる方。

定員／60名（先着順で締切り）
参加費／10,000円（5回分、入材料は別途）

申込方法／受講ご希望の方は往復はがきで、下図のようにご住所・お名前・電話番号・年齢・「明治塾受講希望」とご記入の上、下記宛お申込ください。
（平成23年5月7日消印有効）

送付先／〒484-0000 犬山市内山1
博物館明治村「明治塾」係



スケジュール・講師（時間はいずれも13時から）

第1回	5月21日(土)	岡山 理香	(京都市大学知識工学部准教授)
第2回	6月18日(土)	深井 晃子	(公益財団法人 京都服飾文化研究財団チーフ・キュレーター)
第3回	7月16日(土)	尼崎 博正	(京都造形芸術大学教授)
第4回	9月17日(土)	高橋 裕	(日仏工業技術会会長、東京大学名誉教授)
第5回	10月15日(土)	瀬口 哲夫	(名古屋市立大学大学院教授)

※所属・役職等は平成23年2月28日現在

北里研究所本館・医学館

『学習院長 官舎 保存修理工事』事業概要

「学習院長 官舎」は、学習院が四谷から目白へ移転した翌 明治42年(1909)に学習院正門脇に建てられ、昭和37年(1962)幼稚園建設のため解体、昭和39年(1964)に博物館明治村へ移築され、平成15年(2003)には国の有形文化財として登録されました。創建当初の学習院長は陸軍大将の乃木希典で、第10代目にあたります。

この建物は、玄関脇に洋館を持ち、他の学習院の建物と同じく木造となっています。学習院長という公的な立場での接客や実務には洋館を使用したようですが、和館にも一階二階とも床の間つきの座敷が設けられ、接客の場として意識されていたことがわかります。

外観は立式生活の場である洋館は軒端が高く、洋風の下見板張の壁面には水切を兼ねた胴蛇腹が廻らされ、その上下に丈の高い上ゲ下ゲ窓が整然と並んでいます。一方、和館は和風の下見板張に引き違い窓が連なっています。また玄関には大正2年に建てられた皇族学生のための皇族寮と同じ桜の校章付きの鉄庇が設けられています。

博物館明治村では、平成23年(2011)に、建物の保存のため大型修理工事を実施します。



阪伊伊伊田井鈴藤高浅梅宮島三渡
西藤藤藤中上木本村井村崎岡浦辺
裕湜瑞彰啓雅孝 一 隆初は直
子祐基悟業有祠弘弥健隆司男よ樹

学校法人北里研究所
北里大学同窓会
合資会社船源商店
株式会社吉川工務店

法人の部

品石鈴鈴横行荒横役佐江山荻
川川木木幕本井井重藤河口

(敬称略) 滋新琴耀信惠た良文幸 真祐
太太郎音太樹子よ憲範夫亨人司

個人の部



（平成二十二年十二月三十日 現在）



佐石篠高近村長荻
藤川原山藤上川島
友新開紘あ良泰
紀太郎理地子さ夫裕

岩近服品宮江中
本藤部川崎河野

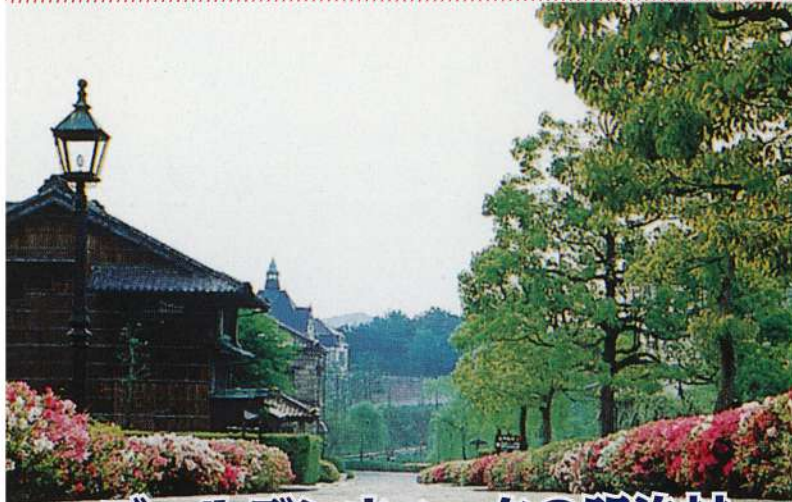
(敬称略) ケイ裕繁滋隆 裕
イコ康男邦司亨子

一般

小弓鶴酒造株式会社
日の出屋製菓産業株式会社
有限会社プレジャー企画

法人の部

個人の部



ゴールデンウィークの明治村

●延長開村
 延長時間 9:00~18:00
 4月29日(祝)・30日(土)、
 5月1日(日)・3日(祝)・4日(祝)・5日(祝)

日本の大道芸

石原 耕
 ■開催日: 4月29日(祝)・30日(土)・5月1日(日)
 ■場 所: 札幌電話交換局横
 ■時 間: 11:00~13:00~15:00~(各30分)
 「がまの油売り」「南京玉すだれ」など日本語特有のリズムとテンポが小気味良い口上芸。「舌耕職人」の見事な口上についつい引き込まれます。

GWコンサート

デュオSAKURA 新緑コンサート

■開催日: 5月3日(祝)・4日(祝)・5日(祝)
 ■場 所: 聖ザビエル天主堂
 ■時 間: 13:00~15:00~(各30分)
 琴の「和」の響きとフルートの「洋」の響きが織り成すハーモニーで心安らぐ演奏をお楽しみ下さい。

明治村花暦

月	3月			4月			5月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下
アセビ									
コバノミツバツツジ									
ソメイヨシノ									
ショウジョウバカマ									
カタクリ									
ボケ									
ヤマザクラ									
ツバキ									
コブシ									
モクレン									
レンギョウ									
ユキヤナギ									
ヤエザクラ									
ドウダンツツジ									
モチツツジ									
サツキツツジ									
アメリカハナミズキ									
ヒラドツツジ									
フジ									
ヒトツバタゴ									
ハナショウブ									

海演隊のハイカラ寄席

■開催日: ① 6月12日(日) ② 6月19日(日)
 ■場 所: 呉服座
 ■時 間: 11:00~14:00~(各60分)
 ■出演者: ① 雷門福三(落語家) 柳家三亀司(独楽回し)
 水谷ミミ(講談師)
 ② 古池鱗林(講談師) 雷門幸福(落語家)
 雷門獅筆(落語家)

東海地区に演芸を広めるために結成された海演隊が呉服座に登場。6月12日は講談師の水谷ミミさんをゲストにお迎えします。

明治村 全国俳句大会 「坂の上の雲」のまち松山 正岡子規

■開催日: 5月8日(日) 聖ザビエル天主堂
 ■記念講演会 13:00~ 松山市立子規記念博物館 館長 竹田美喜氏
 主催/名鉄観光サービス
 共催/東海俳句懇話会
 お問い合わせ先/名鉄観光サービス国内旅行部
 俳句係 052-582-2102

明治彩発見 春の明治村

平成23年3月5日(土)~6月26日(日)

リトルワールド・明治村 共同グルメイベント

「世界の串・日本の串」

■開催日: 3月5日(土)~6月26日(日) (リトルワールドは3月19日(土)~)
 リトルワールドと、明治村が、地元犬山の城下町でおなじみの「串」をテーマにコラボレーション!
 明治村は日本の串27本をご紹介します。

きもので楽しむ明治村

■開催期間: 3月12日(土)~4月10日(日)
 ※期間中きものでご来村の方は入村料半額

●きもの試着体験

■開催日: 3/26(土)・27(日)、4/2(土)・3(日)
 (協力/民族衣裳文化普及協会)

■時 間: 10:00~15:00 (女性限定) 体験料1,000円(90分)
 ※荒天中止

●和雑貨「楽」きものに似合う「和小物」フェア

きものに似合う小物類を集めました。

明治村の桜

■見ごろ: 3月下旬~4月中旬

3月下旬からはシダレザクラ、4月上旬はソメイヨシノ、4月中旬は八重桜が見ごろを迎えます。

※開花時期は天候により前後する場合があります。

黒岩比佐子氏 蔵書展

■期間中開催 ■場所: 三重県庁舎



故黒岩比佐子氏



開村記念日特別企画・第八高等学校正門開門

通常は閉門している明治村正門(第八高等学校正門)を開門します。
 ■開催日: 3月18日(金) ■時 間: 10:00~15:00
 (明治村正門開門)

たてももの講座【申込不要】

■開催日: 3月12日(土)・4月9日(土)・5月14日(土)
 ■時 間: 各日とも11:00~12:00
 ■会 場: お休み処 碧水 ■定 員: 各日50名
 ※満席の場合はご聴講いただけない場合があります。

明治村植物探訪「植物の宝庫・明治村」【予約・定員制】

■開催日: 3月21日(祝)・27日(日)、4月3日(日)
 ■時 間: 各日とも13:00~14:30(約1時間30分)
 ※当日の状況で終了時間は前後する場合があります。
 ■参加費: 無料(別途入村料必要) ■定 員: 各日20名
 ■申込方法: 各開催日の14日前から3日前までに電話またはホームページよりお申込ください。

春のウェディングフェア

■開催日: 4月16日(土)
 お問合せ先/明治村プライダルデスク TEL(0120)78-2205

明治村茶会

事前予約制・有料

明治村の建築物を利用した開かれたお茶会です。どなたでもお気軽にお申しいただけます。

■開催日: 4月22日(金)、23日(土) 電話にてお申込ください。(締切4月10日)
 ■参加費: 15,000円(入村料込) 電話受付 9:30~17:00

西園寺公望別邸

「坐漁荘」・亦楽庵席 (財団法人 犬山城白帝文庫)

財団法人犬山城白帝文庫は、国宝犬山城の城主成瀬家旧蔵の古文書・書籍・絵図・美術工芸品などのコレクションを基に平成16年に設立された財団です。今回は明治村茶会で初のお席持ちで、特別に成瀬家伝来の伝藤原定家筆「小倉色紙『忘らるる』」を御出陳いただきます。元勲・西園寺公望の別邸で、地元犬山・名古屋に所縁深い成瀬隼人正のお道具をご覧ください。

学習院長官舎席 (京都 北村美術館)

北村美術館は林業を営む北村謹次郎が収集した茶道具をはじめとする美術品を保存展示しています。美術館は昭和52年に京都の鴨川西岸に位置し、綺麗寂びで堂上風な好みのコレクションは愛好家の垂涎の的となっています。今回も故北村氏の眼で選ばれた優品をお楽しみください。

日本庭園・野点席 (金鱗会)

お茶どころ名古屋を支える茶道具の作家グループ・金鱗会のご担当です。入鹿池を見下ろす明治の日本庭園で、金鱗会の皆様の趣向を凝らしたお席と、春の麗らかな一日を、お過ごし下さい。

【金鱗会 会員】

漆 芸/木村表恵 村瀬玄之
 陶 芸/中村道年 中村道年 加藤日出 清水久嗣 清水 仁 榎原勇一
 金 工/加藤忠三朗 加藤大忠
 木竹工/川口茂吉